

2019 年度卓越研究員決定者一覧

通番	氏名	機関名	部署名	ポスト分野	卓越研究員としての研究テーマ
1	太田 香	室蘭工業大学	クリエイティブコラボレーションセンター	情報学	次世代IoTシステムの設計と構築に関する研究開発
2	小澤 知己	東北大学	材料科学高等研究所	数物系科学	原子・分子・光物理における凝縮系物性理論の研究
3	山田 将樹	東北大学	学際科学フロンティア研究所	数物系科学	素粒子・原子核および物性理論の応用による初期宇宙の熱史の探求
4	石井 琢郎	東北大学	学際科学フロンティア研究所	工学系科学	排尿障害の機能的診断に向けた超音波尿流動態イメージングの創成
5	橋本 拓也	筑波大学	数理物質系	数物系科学	多波長の宇宙観測によって明らかにする宇宙初期の銀河の性質
6	藤田 諒	筑波大学	医学医療系	医歯薬学	骨格筋幹細胞の幹細胞性維持メカニズムの分子基盤の統合的な理解と筋疾患治療に向けた治療法の開発
7	江幡 修一郎	埼玉大学	理工学研究科	数物系科学	微視的原子核理論による核分裂の記述とその学際的応用研究への基盤開発
8	武田 俊太郎	東京大学	大学院工学系研究科	数物系科学	ループ型光量子コンピュータの開発とその実用的アプリケーションの探求
9	船水 章大	東京大学	定量生命科学研究所	情報学	知覚神経回路基盤の情報学的解明
10	安井 伸太郎	東京工業大学	科学技術創成研究院 先導原子力研究所	工学系科学	IoT搭載を目指したエネルギー、センサ材料の開発
11	渡邊 洋平	電気通信大学	学術院（大学院情報理工学研究科情報学専攻）	情報学	現代暗号理論・セキュリティ分野において、クラウド技術や機械学習等の先端情報技術の利便性とそれらの技術で扱うデータのプライバシーを両立させることを目的とし、理論的興味(シーズ)と実社会からの要求(ニーズ)の両面から、高い利便性を維持しながらも安全性を保証可能な暗号技術(高機能暗号技術)の研究開発を行う。
12	宮町 俊生	電気通信大学	学術院（大学院情報理工学研究科情報学専攻）	数物系科学/ 工学系科学	原子層物質におけるマイクロとマクロをつなぐ表面・界面物性研究
13	田邊 遼司	横浜国立大学	大学院環境情報研究院	情報学	応用領域拡大を目的とした次世代型進化計算技術の設計
14	下西 隆	新潟大学	研究推進機構超域学術院	数物系科学	天文観測・計算化学・実験室宇宙物理学の融合による宇宙分子進化史の解明
15	林 智彦	新潟大学	自然科学系工学部	工学系科学	MDM2をターゲットとした新規抗癌剤候補ペプチドの設計・合成
16	庄司 観	長岡技術科学大学	産学融合トップランナー養成センター	工学系科学	生物と機械を繋ぐインターフェースの構築によるバイオインテグレートッドシステムの開発
17	山下 智樹	長岡技術科学大学	産学融合トップランナー養成センター	工学系科学	結晶構造探索手法の開発と材料設計への応用
18	菅沼 健太郎	金沢大学	人間社会研究域歴史言語文化学系	人文学	エスキメヒル・カラチャイ語を中心としたチュルク諸語、および日本語諸方言を対象とした記述言語学的研究
19	覺張 隆史	金沢大学	人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター	生物系科学	新たな古代ゲノム・プロテオーム解析の基盤構築に関する研究
20	齋川 賢一	金沢大学	理工研究域数物科学系	数物系科学	アクション暗黒物質の宇宙論的役割についての研究
21	高塚 大知	金沢大学	理工研究域生命理工学系	生物系科学	植物の根の成長原理の解明
22	盧 暁南	山梨大学	大学院 総合研究部 工学域 電気電子情報工学系（コンピュータ理工学）	情報学	組合せデザイン理論とその応用
23	渡辺 健太郎	信州大学	繊維学部機械・ロボット学科 機能機械学コース	工学系科学	低次元半導体ナノ構造の超高密度配列の実現と革新的エネルギーデバイスの創出
24	中村 彰彦	静岡大学	学術院農学領域	農学・環境学	生体及び人工高分子分解酵素の機能解析と改変
25	杉田 征彦	京都大学	ウイルス・再生医科学研究所	医歯薬学	マイナス鎖RNAウイルスの構造学的研究
26	池田 華子	京都大学	医学部附属病院	医歯薬学	網膜における脂質代謝に着目した難治眼疾患の治療法開発
27	金沢 篤	京都大学	理学研究科	数物系科学	ミラー対称性と複素・Kahlerモジュライ理論の研究
28	櫻井 庸明	京都工芸繊維大学	分子化学系	化学/工学系科学	周辺分子設計による共役分子間相互作用の自在制御と材料機能創出
29	津田 和俊	京都工芸繊維大学	デザイン・建築学系	工学系科学/農学・環境学/人文学	デザイン、ファブ、バイオの実践的リサーチを通じたサステナビリティ研究の展開

30	吉田 浩之	大阪大学	電気電子情報通信工学専攻	工学系科学	液晶配向場のトポロジー制御による多安定性の創出と光機能開拓
31	有井 潤	神戸大学	大学院医学研究科	医歯薬学	ヘルペスウイルスの病原性発現機構の解析
32	佐藤 裕介	鳥取大学	工学研究科, 工学部附属グリーン・サステナブル・ケミストリー研究センター	生物系科学	多様な補因子によるp97/Cdc48制御機構の構造学的解析
33	樽谷 直紀	広島大学	学術院 (大学院先進理工系科学研究科)	工学系科学	有機無機ハイブリッド微粒子を用いた材料設計: マルチスケールの構造精密制御による機能創出
34	増田 展大	九州大学	芸術工学研究院	人文学	技術と生命に関するメディア・デザインの感性論的研究
35	井上 大介	九州大学	芸術工学研究院	工学系科学	細胞のデザイナー“細胞骨格”に習う自己組織化デザイン
36	川節 和哉	熊本大学	大学院先端機構	数物系科学	有理的・対数的W代数の表現論の研究
37	池田 輝政	熊本大学	ヒトレトロウイルス学共同研究センター熊本大学キャンパス	医歯薬学	宿主因子APOBEC3Gの抗HIV-1活性の強化を目的とした制御機序の解明
38	中野 和也	宮崎大学	テニューアトラック推進室	工学系科学/情報学	散乱媒質透過光に基づく生体イメージング及び情報セキュリティへの応用
39	神田 遼	大阪市立大学	理学研究科	数物系化学	非可換代数幾何学に関する研究
40	渋谷 昌弘	大阪市立大学	工学研究科	工学系化学	光機能性ナノ物質の秩序薄膜に関する研究
41	道上 健一	大阪府立大学	理学系研究科	化学	新奇低原子価遷移金属錯体の創製とカルボン酸誘導体の革新的触媒変換法の開拓
42	北山 雄己哉	大阪府立大学	工学研究科	化学	生体内分子を能動的に利用する高分子ナノキャリアの開発
43	T A G H I Z A D E H H E S A R Y F A R H A D	東海大学	創造科学技術研究機構	社会科学	Financial solutions for unlocking private finance and investments in green and sustainable projects
44	天神林 瑞樹	物質・材料研究機構	国際ナノアーキテクニクス研究拠点	工学系科学	流動抵抗低減スマートコーティングの開発
45	早瀬 元	物質・材料研究機構	国際ナノアーキテクニクス研究拠点	化学	高強度複合モノリス型マクロ多孔体の作製・加工と断熱材等への応用
46	清水 荘雄	物質・材料研究機構	機能性材料研究拠点	工学系科学	可逆的ドメインスイッチングによるHfO2基ゲムチェンジ圧電材料の創成
47	松田 昇也	宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所	数物系科学	科学衛星プラズマ波動観測による惑星プラズマ環境変動の革新的計測法の確立
48	北嶋 俊輔	がん研究会	細胞生物部	医歯薬学	STING経路を標的とした免疫チェックポイント阻害薬治療耐性を克服するための新規治療法開発

2019年度卓越研究員事業におけるポストを提示した研究機関

●国立大学（34機関）		ポスト数
1	室蘭工業大学	2
2	北見工業大学	1
3	岩手大学	1
4	東北大学	10
5	筑波大学	2
6	群馬大学	1
7	埼玉大学	2
8	東京大学	5
9	東京医科歯科大学	1
10	東京工業大学	2
11	電気通信大学	5
12	横浜国立大学	3
13	新潟大学	4
14	長岡技術科学大学	1
15	金沢大学	8
16	山梨大学	2
17	信州大学	4
18	岐阜大学	2
19	静岡大学	1
20	浜松医科大学	1
21	豊橋技術科学大学	1
22	京都大学	8
23	京都工芸繊維大学	3
24	大阪大学	1
25	神戸大学	1
26	鳥取大学	2
27	島根大学	1
28	岡山大学	3
29	広島大学	2
30	徳島大学	1
31	九州大学	2
32	佐賀大学	1
33	熊本大学	4
34	宮崎大学	1
計		89

●公立大学（2機関）		ポスト数
35	大阪府立大学	2
36	大阪市立大学	2
計		4

●私立大学（1機関）		ポスト数
37	東海大学	1
計		1

●大学共同利用機関（1機関）		ポスト数
38	人間文化研究機構	1
計		1

●国立研究開発法人（3機関）		ポスト数
39	日本原子力研究開発機構	1
40	物質・材料研究機構	11
41	宇宙航空研究開発機構	4
計		16

●企業（7機関）		ポスト数
42	パナソニック株式会社	6
43	JFEスチール株式会社	2
44	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所	2
45	株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ	2
46	シンクサイト株式会社	1
47	塩野義製薬株式会社	2
48	株式会社Epsilon Molecular Engineering	2
計		17

●社団・財団法人（1機関）		ポスト数
49	公益財団法人がん研究会	2
計		2

●全体（49機関）		ポスト数
計		130

背景・課題

- 今後、**生産年齢人口の減少**が一層進む中、貴重な高度人材である**若手研究者の活用**を社会全体で無駄なく効率的に図ることが必要であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で極めて重要。

事業概要

【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

【事業の概要】

- ① 卓越研究員の受入れを希望する大学、研究開発法人、企業等からポストを募集し、一覧化して公開
- ② 若手研究者に対して卓越研究員の公募を行い、厳正な審査を経て文部科学省が若手の卓越した研究者を候補者として選定
- ③ その後、卓越した研究者とポストを提示した研究機関が交渉を行い、マッチングが成立した候補者について、文部科学省が卓越研究員として決定
- ④ 卓越研究員を受け入れた研究機関に対し、一定の期間、研究費等を支援

2019年度の改善点

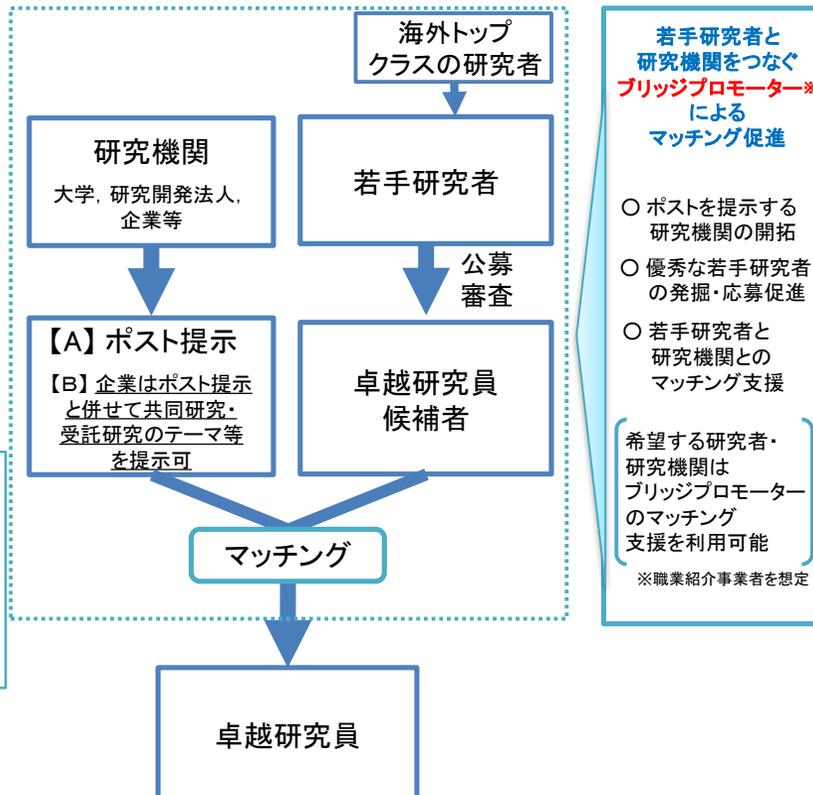
- 海外のトップクラスの研究機関で活躍し、帰国する研究者について特別枠を設け支援。
- 若手研究者と研究機関をつなぐブリッジプロモーターによるマッチング支援を導入
- 企業はポスト提示と併せて共同研究や受託研究のテーマ等を提示することができることとし、卓越研究員を雇用する企業が、当該卓越研究員を大学との産学連携活動に従事させる場合には、その間の産学連携活動費の1/2を上限(年間10百万円まで)に5年間支援することとする。(企業が1/2負担)※クロスアポイント制度や出向制度を活用した共同研究も想定。

【事業スキーム】

- ✓ 支援対象：国公立大学、国立研究開発法人、民間企業等
- ✓ 人数：70名程度(2019年度新規分)
- ✓ 支援内容：【A】若手研究者の研究費 年間6百万円(上限)／人(2年間)¹
研究環境整備費 年間2～3百万円(上限)／人(5年間)
※¹ 人文・社会科学系は、400万円を上限
- 【B】産学連携活動費 年間最大10百万円(上限)／人 (最長5年間)²

※² 補助率1/2とし、企業負担額を上限。共同研究等の開始が2年目の場合、1年目は研究環境整備費のみ措置。

【事業イメージ】



- 【A】従前と同様、若手研究者の研究費と研究環境整備費を支援
- 【B】企業が卓越研究員を共同研究又は受託研究に従事させる場合は産学連携活動費の1/2を支援
※企業は【A】又は【B】を選択

1. 事業概要

卓越研究員事業は、新たな研究領域に挑戦するような若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関をフィールドとして活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示することを目的とした事業です。

本事業のスキームは、以下のとおりです。

- ① 最初に、文部科学省が卓越研究員の受入れを希望する研究機関からポストを募集し、提示されたポストのうち要件を満たすものを文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のホームページを通じて、一覧化して公開します。
- ② それと並行して、若手研究者に対し、卓越研究員の公募を行い、厳正な審査を経て、文部科学省が卓越研究員候補者（以下「候補者」という。）を決定します。
- ③ その後、卓越研究員候補者とポストを提示した研究機関が個別に交渉（当事者間交渉）を行い、各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た（当事者間交渉が完了した）卓越研究員候補者について、文部科学省が卓越研究員として決定し、必要に応じて、卓越研究員を受け入れた研究機関に対して、一定の期間、研究費等の支援を行います。

なお、平成30年度からの主な変更点は、以下のとおりです。

(1) 卓越研究員候補者資格の継続

- ・2019年度中に当事者間交渉が完了しなかった候補者について、翌年度以降も候補者資格の継続の申請をすることにより、候補者資格を令和3年度まで継続することができるものとなりました。
- ・平成30年度公募において、候補者に決定され、当該年度中にポストを提示した研究機関との当事者間交渉が完了しなかった者のうち、2019年度にポストを提示した研究機関との当事者間交渉を行う意思がある者については、候補者資格の継続を申請することで、2019年度に限り当事者間交渉に参加することを可能としました。

(2) 当事者間交渉支援の導入

- ・産学官の研究機関をフィールドとして活躍できる優秀な若手研究者の発掘を促し、当事者間交渉がより一層円滑に進むよう、候補者と研究機関をつなぐための当事者間交渉支援を導入しました。

(3) 産学連携活動費による支援

- ・企業が提示したポストにおいて、卓越研究員に決定した若手研究者が安定かつ自立した研究環境を得るとともに、大学、大学共同利用機関、高等専門学校及び国立研究開発法人との共同研究又は受託研究に参画する場合に、産学連携活動費を補助金として交付することとしました。

2. 公募期間及び申請件数

ポストについては、平成31年1月24日（木）から公募を開始し、同年12月末日までに、大学や公的研究機関、民間企業などから130件（49機関）のポスト提示にご協力いただき、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のウェブサイトを通じて

公開しました。(別紙2参照)

申請者(若手研究者)については、平成30年度からの候補者資格継続者が106名でした。また、平成31年3月22日(金)より、申請を受け付け、同年4月24日(水)までの間、公募を行った結果、559名の新規申請者(研究者)から申請書の提出を受け付けました。

3. 選考方法及び決定件数

本事業に係る審査等業務を行う独立行政法人日本学術振興会において、有識者によって構成される卓越研究員選考委員会を設置し、本事業の審査要領に基づき審査を行い、同委員会の審査結果を踏まえ、令和元年7月11日(木)に文部科学省において、223名の卓越研究員候補者を決定しました。

その後、卓越研究員候補者とポストを提示した研究機関において当事者間交渉が行われ、2019年度末までに各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た旨、文部科学省に報告された卓越研究員候補者48名について、2019年度卓越研究員として決定しました。